

ペルー共和国

主要データ

国名〔英名〕	ペルー共和国〔Republic of Peru〕
面積(km ²)	1,285,216
海岸線延長(km)	2,414
人口(百万人)	29.5
人口密度(人/km ²)	23.0
GDP(百万US\$)	184,962
一人当りGDP(US\$)	6,070
主要鉱産物：鉱石	銅、鉛、亜鉛、錫、金、銀
主要鉱産物：地金	銅、鉛、亜鉛、錫
鉱業管轄官庁	エネルギー鉱山省(Ministerio de Energia y Minas)
鉱業関連政府機関	鉱山地質冶金研究所(Instituto Geologico Minero y Metalurgico: INGEMMET)
鉱業法	鉱業一般法(1992年)
ロイヤルティ	最高政令 NO. 180-2011-EF(ロイヤルティ法(2004年法律 NO. 28258)の施行細則を改正する最高政令))
外資法	民間投資法
環境規制法(環境影響調査制度、環境・排出基準の有無等)	環境法
鉱業公社	-
鉱業活動中の民間企業	BHP Billiton、Xstrata、Freeport McMoRan、Buenaventura 等
近年の鉱業関連問題(資源ナショナリズム、労働争議、環境問題等)	<ul style="list-style-type: none"> ・ Southern Copper 社の Tia Maria 銅プロジェクトに対する抗議行動が2011年3月末に激化し、死傷者が発生する事態となり、政府が同プロジェクトのEIAの否認を決定 ・ Puno 県で、Bear Creek Mining 社(カナダ)の Santa Ana 銀・鉛・亜鉛プロジェクトに対する反対運動が2011年4月末以降急速に激化して多数の死傷者を出すに至り、政府が Santa Ana 鉱区を取り消すことで終息 ・ Cajamarca 県で、Yanacocha 社の Minas Conga 金プロジェクトに対し、水資源の枯渇・汚染、環境問題に不安を抱く地域住民らによる反対運動が激化、同プロジェクトを重要視する政府はEIA再評価・対話等により反対運動の沈静化を試みるも歩み寄りが見られず、2012年7月上旬にはデモ隊から多数の死傷者が出、2012年8月下旬には Yanacocha 社はプロジェクトを実質的に中止
2011年のトピックス	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2011年の鉱山生産量は銅、亜鉛、鉛及び銀の主要鉱種は対前年比で減産、金生産量は対前年比で横ばい ・ 2011年の鉱業投資額は、2010年を77%上回る72億US\$に拡大 ・ 鉱業投資額が過去最高に達する一方で反鉱山運動が激化、2012年8月、Yanacocha 社の Minas Conga 金プロジェクトが実質的に中止

1. 鉱業一般概況

ペルーは、鉱物資源が豊富で多岐に及び、多くの鉱種で世界の主要生産国(2011年は銅3位、亜鉛3位、鉛4位、金6位、銀3位)となっているのが特徴的である。

ペルーの2011年の鉱山生産量は、新規鉱山の開発が遅れる一方で、既存鉱山の鉱量枯渇や品位低下が影響し、銅が前年比1.0%減の123.5万t、亜鉛が14.6%減の125.6万t、鉛が12.2%減の23.0万t、金が横ばいで164t、銀が6.2%減の3,414tと軒並み対前年比で減産となった。

一方、ペルーの2011年の鉱産物輸出額は、2008年9月の金融危機以降の金属価格の急落の影響を受けた2009年を103億US\$(64%)上回る267億US\$に達し、史上最高額を記録した。輸出総額に占める鉱産物輸出額の割合は58.5%と約6割を占めている。内訳は、銅が前年比21%増の107.1億US\$、金が30%増の100.3億US\$となり、亜鉛(10%減、15.2億US\$)、鉛(54%増、24.2億US\$)を加えると、これらの4鉱種で鉱産物全体の92%、輸出全体の54%を占めている。

また、エネルギー鉱山省によると、2011年のペルーの鉱業投資額は72億US\$となり、2010年の40.7億US\$を77%上回り、過去最高額を更新した。同省によると、2012年3月現在、ペルーでは2016年までに実施が予定されている44の新規プロジェクトが存在し、これら鉱業投資額の合計は522億US\$と見込まれている。

2. 鉱業政策の主な動き

ペルーは、2012年7月28日でHumala大統領就任1周年を迎えた。この1年間の鉱業を取り巻く状況を踏まえ、就任後1年の独立記念日における演説の中で、Humala大統領は鉱業関連政策について次の発言を行っている。

まず、Humala政権発足後に導入された新たな鉱業税制(鉱業ロイヤルティの改正及び鉱業特別税、鉱業特別賦課金の導入)により、これまでに政府は12億4千6百万US\$の税収を得たとし、より規模の大きな社会プログラムへの投資に充てる方針を示した。

鉱業を巡る社会争議への対策に関しては、具体的なプロジェクト名(Minas Conga金プロジェクト等)やその対応には言及しなかったものの、争議の主要因である水資源に関して、国民への水資源の供給不足を招く可能性のある天然資源採掘プロジェクトの実施を、政府は許可しないとの考えを示した。さらに、天然資源採掘と水資源保護の両立には法的枠組みや政治方針が必要であると、国会に対し、水資源に関する基本的権利が憲法の中で認められることを目的とした憲法改正の提案を行った。

また、社会争議に対する政府の対応が不十分であることを認め、現在内閣の中に設置されている社会争議防止室を、全国社会争議防止局として再生させ、各州政府との協定のもと全国に支局を置くことを発表した。その上で、社会争議を乗り越え、忍耐や相互尊重、対話による解決を習慣づけることが目標であるとの考えを示した。

さらに、天然資源採掘や争議防止に関連し、先住民事前協議法が施行されたことは貴重な一歩だったと述べた。

(1) 新たな鉱業税制

2011年9月28日に公布された新たな鉱業税制に関しては、「世界の鉱業の趨勢2011」のペルーの頁において、「鉱業における超過利益課税」として報告している。

鉱業特別税の新設、鉱業特別賦課金の新設及び鉱業ロイヤルティ改正に関する業界の反応には、今後、新たな税が導入される場合に今回導入された特別税と相殺することを定めた条項を盛り込むことが、ペルー鉱業石油エネルギー協会(SNMPE)と政府との間で取り決められていたにも拘わらず、この部分が削除されていることに対する不満や、これらの新たな鉱業税制導入によってペルー鉱業は、チリやオーストラリア等との競争力を維持できるぎりぎりのラインに立つことになったとの見方がある。

(2) 鉱業を巡る社会争議への対応

ペルー政府は、ペルーの経済社会発展面からの鉱業の重要性を理解しており、近年、特に激しさを増してきた反鉱山運動等の社会争議に対し、環境保全、先住民対策、地域発展等の点からの取組み強化を図り始めた。

① 天然資源開発禁止区域の拡大

2011年9月、環境省のDe Echave環境政策次官は、ペルー国内の自然保護地域を拡大し、国土の利用を規定する国土整備法を定めることで、鉱業等を原因とする社会争議の防止を目指したいとの考えを示した。同次官は、国内には5,500箇所では廃止鉱山による鉱害が存在していることに言及し、国土整備法の導入は環境・社会争議の減少につながるとの考えを示した。

2012年10月現在、国土整備に関する法案は2013年7月までに優先的に審議を行うとされた41件に含まれている。

ペルー鉱業石油エネルギー協会(SNMPE)によると、ペルー国土全体のうち既に57%が鉱区付与禁止区域であるが、鉱区が設定されているのは全国土の0.5%である。

② 先住民事前協議法施行細則の公布

ペルー政府は、2012年4月3日付けで先住民事前協議法(法律29785)の施行細則を公布した。

先住民事前協議法及び施行細則は、ILO第169号条約(国際労働機関の原住民及び種族民に関する条約)の枠内にて実行され、鉱業や炭化水素事業等の天然資源開発プロジェクトが先住民コミュニティの集団的権利に対して直接的な影響を及ぼす場合、政府はこれらプロジェクトの探鉱や開発を承認・許可する前に、政府と先住民コミュニティの間で事前協議を行う義務があると定めている。

更に、同施行細則の対象となるのは、政令の発布等だけでなく、国会が制定する法律等に関しても、先住民コミュニティに直接的な影響を及ぼす場合は、全て事前協議プロセスを経なければならないと定めている。ただし、事前協議の結果、政府と先住民社会との間で合意が得られない場合でも、その結果は義務的な性質を持つものではないことから、プロジェクト或いは政令や法律等が中止・廃止されることを意味しない一方で、合意に至らない場合には、政府は、影響を受ける先住民の集団的権利を保障し、その生活や安全、発展への打撃を回避する措置を講じなければならないとしている。

その他、同施行細則では、事前協議プロセスは文化省の多文化次官室が統括すること、協議の期間は最大120日間とすること等が定められている。

同施行細則の公布に対し、「施行細則は客観的、専門的かつ透明性ある争議解決のメカニズムであるとして評価し、本細則は今後のプロジェクトの妨げになるどころか、より多くの投資を誘致するための刺激となるだろう。」(ペルー経団連Garcia Miro会長)、「施行細則が社会争議の解決に寄与し、中断状態となっていた様々なプロジェクトの手続きが今後再開されることを期待する。」(ペルー鉱業石油エネルギー協会(SNMPE)Martinez会長)といった、概ね評価する声が産業界から聞かれるが、地元社会からは、「施行細則の案文作成委員会において採決された全ての合意内容を反映したものになっていない」と不満の声も上がっている(ペルーアマゾン民族連盟(Conap)Barbaran代表)。

③ 環境政策強化のための体制整備

ペルー政府は、2012年8月、大規模プロジェクトの環境影響評価(EIA)の審査と承認を担う機関「持続的投資環境認証サービス局」(SENACE)の設立法案を、国会に提出した。

Pulgar-Vidal環境大臣は、この機関は環境省管轄となり、環境を保護しつつ持続的な投資を促進することを目指すとしたほか、局長は環境省、副局長は経済財務省から任命されること、また6人の大臣等によって構成される審議会を設置すること等を明らかにした。

一方、Merinoエネルギー鉱山大臣によれば、初期段階のEIA審査はエネルギー鉱山省が実施するが、プロジェクトが大規模な場合にはEIAをSENACEへ送付し、同機関による承認を受けることになることと説

明した上で、プロジェクトにおける建設や選鉱計画に関するライセンス、閉山計画等に関する承認は引き続きエネルギー鉱山省が行うことを明らかにした。

さらに、Merino 大臣は、EIA の承認に際し、これまでエネルギー鉱山省が行ってきたのと同様、SENACE は全てのセクターと協議を行い、了解をとりつけなければならないとしている。

3. 主要鉱産物の生産・輸入・消費・輸出動向

(1) 主要金属鉱石生産量

① 銅

2011 年の銅生産量は対前年比 1.0%減の 123.5 万 t で、世界の銅生産量 1,620 万 9,300t の 7.6%を占め、チリ (32.4%)、中国 (7.8%) に次いで世界第 3 位 (2010 年世界第 2 位) となった。

② 亜鉛

2011 年の亜鉛生産量は対前年比 14.6%減の 125.6 万 t で、世界の亜鉛生産量 1,274 万 t の 9.9%を占め、中国 (33.6%)、豪州 (12.0%) に次いで世界第 3 位 (2010 年世界第 2 位) であった。

③ 鉛

2011 年の鉛生産量は対前年比 12.2%減の 23 万 t で、世界の鉛生産量 468 万 t の 4.9%を占め、中国 (50.0%)、豪州 (13.2%)、米国 (7.4%) に次いで世界第 4 位であった。

④ 金

2011 年の金生産量は対前年と横ばいの 164t で、世界の金生産量 2,583t の 6.3%を占め、中国 (14.0%)、豪州 (10.0%)、米国 (9.2%)、ロシア (7.3%)、南ア (7.2%) に次いで世界第 6 位であった。

⑤ 銀

2011 年の銀生産量は対前年比 6.2%減の 3,414t で、世界の銀生産量 23,722t の 14.4%を占め、メキシコ (20.1%)、中国 (14.8%) に次いで、世界第 3 位 (2010 年世界第 2 位) であった。

⑥ 錫

2011 年の錫生産量は対前年比 14.2%減の 29,000t で、世界の錫生産量 302,100t の 9.6%を占め、中国 (42.2%)、インドネシア (25.8%) に次いで世界第 3 位であった。

⑦ モリブデン

2011 年のモリブデン生産量は対前年比 12.4%増の 1.9 万 t で、世界のモリブデン生産量 270,100t の 7.1%を占め、中国 (39.1%)、米国 (25.5%)、チリ (15.1%) に次いで世界第 4 位であった。

表 1-1. 金属鉱石生産量

鉱種	2009 年	2010 年	2011 年	対前年増減比 (%)
銅 (千 t)	1,274.7	1,247.2	1,235.2	-0.1
亜鉛 (千 t)	1,509.1	1,470.5	1,255.9	-14.6
鉛 (千 t)	302.4	262.0	230.0	-12.2
金 (t)	184.0	164.1	164.0	0.0
銀 (t)	3,854.0	3,640.20	3,414.0	-6.2
錫 (千 t)	37.5	33.8	29.0	-14.2
モリブデン (千 t)	12.3	17.0	19.10	12.4
タングステン (t)	634.0	716.0	546.0	-23.7
アンチモン (t)	263.0	120.0	120.0	-0.0
鉄鉱石 (千 t)	4,418	6,042	7,010	16.0

(出典：鉄鉱石：PERU 2011 ANUARIO MINERO Ministerio de Energia y Minas、その他：World Metal Statistics Yearbook 2012)

(2) 主要金属地金生産量

表 1-2. 金属地金消費量

鉱種	2009年	2010年	2011年	対前年増減比(%)
銅(千t)	423.4	393.6	367.6	-6.6
亜鉛(千t)	149.0	223.0	314.0	40.8
鉛(千t)	26.0	-	-	-
錫(千t)	33.9	36.4	30.3	-16.8
粗鋼(千t)	720.0	880.0	-	-

(出典：亜鉛・鉛：ILZSG Lead and Zinc Statistics April 2012、鉄：Steel Statistical Yearbook 2011、その他：World Metal Statistics Yearbook 2012)

(3) 主要金属消費量

表 1-3. 金属地金消費量

鉱種	2009年	2010年	2011年	対前年増減比(%)
銅(千t)	53.0	54.1	55.0	1.7
亜鉛(千t)	52.0	81.0	90.0	11.1
鉛(千t)	10.0	11.0	11.0	0.0
錫(千t)	0.2	0.2	0.2	0.0

(出典：銅：ICSG Copper Bulletin September 2012、亜鉛・鉛：ILZSG Lead and Zinc Statistics September 2012、錫：World Metal Statistics Yearbook 2012)

(4) 主要金属輸出量

表 1-4. 金属精鉱及び地金輸出量

鉱種	2009年	2010年	2011年	対前年増減比(%)	主な輸出相手国
銅精鉱(千t)	866.9	919.6	940.4	2.3	中国、日本、ドイツ、韓国
ブリストア・アノード(千t)	23.2	20.9	14.7	-29.7	ベルギー、中国、米国、日本
銅地金(千t)	379.0	343.6	309.3	-10.0	米国、中国、イタリア、ブラジル
亜鉛精鉱(千t)	1,191.0	1,116.0	742.0	-33.5	中国、韓国、スペイン、日本
亜鉛地金(千t)	98.0	142.0	224.0	57.7	米国、コロンビア、日本
鉛精鉱(千t)	277.0	301.0	242.0	-19.6	中国、韓国、カナダ
鉛地金(千t)	35.0	11.0	8.0	-27.3	ブラジル、コロンビア、チリ
錫地金(千t)	2.8	13.0	1.0	-92.3	-

(出典：銅：ICSG Copper Bulletin September 2012、ICSG 2012 Statistical Yearbook、亜鉛・鉛：ILZSG Lead and Zinc Statistics September 2012、錫：World Metal Statistics Yearbook 2012)

(5) 主要金属輸入量

表 1-5. 金属精鉱及び地金輸入量

鉱種	2009年	2010年	2011年	対前年増減比(%)
銅精鉱(千t)	0.2	0.6	3.8	533.3

(出典：ICSG Copper Bulletin September 2012)

4. 鉱山・製錬所状況

表 2-1. 鉱山一覧

鉱山名	権益所有企業(権益 : %)	鉱種	2011年 生産量(千t)	備考
Antamina	BHP Billiton(33.75)、 Xstrata(33.75)、 Teck Resources(22.5)、三菱商事(10)	銅(精鉱中含量) 亜鉛	347 270	
Gerro Verde	Freeport McMoRan(53.6)、 Buenaventura(18.2)、住友金属鉱山 (16.8)、住友商事(4.2)他	銅(精鉱中含量) 銅(SxEw カソード) 銅(合計)	228 75 303	
Guajone	Grupo Mexico(80.9)	銅(精鉱中含量) 銅(SxEw カソード) 銅(合計)	140 4 144	
Toquepala	Grupo Mexico(80.9)	銅(精鉱中含量) 銅(SxEw カソード) 銅(合計)	120 32 152	
Tintaya	Xstrata	銅(精鉱中含量) 銅(SxEw カソード) 銅(合計)	74 21 95	
Gerro Corona	Gold Fields	銅(精鉱中含量) 金(t)	44 5	
Cobriza	Doe Run	銅(精鉱中含量)	20	
Condestable	Iberian Minerals(98.73)	銅(精鉱中含量)	12	
Gerro Lindo	Milpo	銅(精鉱中含量) 亜鉛	23 96	
Colquijirca	Brocal	銅(精鉱中含量) 亜鉛 鉛	23 25 11	
Iscaycruz	Glencore	亜鉛	121	2010.4 から生産再開
Gerro de Pasco	Volcan	亜鉛 鉛	6 1	
San Cristobal	Volcan	亜鉛 鉛	87 16	
El Porvenir	Milpo	亜鉛	65	
Atacocha	Milpo(70)	亜鉛 鉛	48 10	
Chungar	Volcan	亜鉛 鉛	104 20	
Americana	Casapalca	亜鉛	38	
Andaychagua	Volcan	亜鉛	33	
Yauricocha	Corona	亜鉛 鉛	19 16	
Huanzala	三井金属鉱業	銅(精鉱中含量) 亜鉛 鉛	2 22 9	
Pallca	三井金属鉱業	亜鉛 鉛	13 2	
Yanacocha	Newmont (51.35)、Buenaventura (43.65)、IFC (5)	金(t)	40	
Lagunas Norte	Barrick Gold	金(t)	24	
M. D. D	Madre de Dios	金(t)	22	
Orcopampa	Buenaventura	金(t)	8	
Pierina	Barrick Gold	金(t)	5	
Horizonte-Curaubamba	Consorcio Minero Horizonte	金(t)	6	
Tucari	Aruntani	金(t)	6	
Santa Rosa-Comarsa	Aurifera Santa Rosa	金(t)	6	
Retamas	Aurifera Retamas	金(t)	5	
San Rafael	Minsur	錫	29	
Shougang	Shougang Hierro Peru	鉄	7,011	

(出典 : エネルギー鉱山省)

表 2-2. 製錬・精製所生産状況

製錬・精製所名	権益所有企業(権益: %)	鉱種・形態	2011年 生産量(千 t)	備考
Ilo	Grupo Mexico (80.9%)	銅	223	
La Oroya	Doe Run	銅 亜鉛 鉛	0 0 0	2009年半ばから操業停止。2012年7月28日、再開を発表するも、2012年10月末現在停止中。
Cajamarquilla	Votorantim	銅 亜鉛	4 313	
Funsur	Minsur	錫	32	

(出典: エネルギー鉱山省)

5. 探鉱状況

エネルギー鉱山省によると、2011年におけるペルーの鉱業投資額は2010年を77%上回る72億US\$に達した。ペルーへの鉱業投資額は、2007年が12.5億US\$、2008年が17.1億US\$、2009年が28.2億US\$、2010年が40.7億US\$と毎年増加している。

2011年において最大の鉱業投資が行われたのはYanacocha金鉱山の11.5億US\$であった。また、Xstrata Copper社はLas Bambas銅プロジェクト(Apurimac県)に7.63億US\$を、Tintaya銅鉱山(Cuzco県)に6.68億US\$を投資した。その他、ChinalcoがToromocho銅プロジェクト(Junin県)に7.5億US\$を投資した他、Antamina銅・亜鉛鉱山(Ancash県)には6.4億US\$が投資された。

投資額を県別にみると、Cajamarca県が全体の19.9%、14.4億US\$で首位、Junin県が9.73億US\$、Apurimac県が8.38億US\$、Ancash県が8.22億US\$、Cuzco県が6.81億US\$の順となっている。

前記鉱業投資額のうち、2011年のペルーに対する探鉱投資額は8億4,900万US\$で、世界全体の探鉱投資182億US\$の4%を占めたものの、隣国のチリは世界全体の鉱業投資の5%を集め、ペルーは南米域内における探鉱投資対象国首位の座をチリに明け渡す結果となった。2011年は鉱業に関連する社会争議が依然として展開されていたことに加え、大統領選が行われたことにより、鉱業投資が実質的に数か月間停止状態にあり、その後、新政権の政策を見極めた上で投資が回復していったこと、チリでの探鉱活動が活発化していること等が理由と考えられる。

2011年8月以降に各社により発表された主な探鉱プロジェクト等に関する動向は、以下のとおりである。

(1) Los Galatos 銅プロジェクト

- Metminco社(豪州)の現地子会社であるHampton Peru社は、Los Galatos銅プロジェクト(Moquegua県)で実施中の第4期探鉱プログラム(ボーリング総延長: 10万m)を2012年末までに完了させるとの計画を明らかにした。(2012年4月16日)
- Metminco社は、2014年には同プロジェクトのFSを完了、2015年には鉱山建設を開始して2018年末から2019年初頭にかけて操業を開始する計画を明らかにした。また、年間200千tの銅精鉱を20年にわたって生産する見通しを示したほか、30億US\$と見込まれる開発投資額を共同で出資するパートナーを捜しているとコメントした。同プロジェクトは国有地に位置しており、優先度の高いプロジェクトであることが国によって認められていることなどから住民問題等は抱えていない。また、操業では海水を淡水化して利用する計画となっている。(2012年5月21日)
- 同プロジェクトで実施された最近のボーリング調査により、高品位の鉱化帯が確認され、今後、Metminco社は2012年末を目途にプレFSを開始する予定。Los Galatos鉱床の鉱量は23億tで平均品位は銅0.4%、モリブデン210ppmとされる。(2012年7月30日)

(2) Antamina 鉱山

- ・現在拡張工事中の Antamina 鉱山(Ancash 県)の操業が 100%となる 2013 年は、亜鉛生産量の増加が最大となる見込みである。(2011 年 7 月 4 日)

(3) Cerro Verde 銅・モリブデン鉱山拡張プロジェクト

- ・Cerro Verde 銅・モリブデン鉱山(Arequipa 県)は、2012 年内に拡張プロジェクトの実施に必要な諸手続きが完了するとの見通しを示した。現在、同鉱山は拡張プロジェクトに関する環境影響評価(EIA)の内容を周知するための市民参加セミナーを実施した。(2012 年 2 月 6 日)
- ・同プロジェクトに関する環境影響評価(EIA)の公聴会が開催された。(2012 年 2 月 27 日)
- ・Buenaventura 社は、同プロジェクトに対する 2012 年の投資額は 7 億 5 千万 US\$に上ることを明らかにした。同拡張プロジェクトには総額 40 億 US\$の投資が行われる計画となっている。(2012 年 7 月 2 日)
- ・Freeport-McMoran Copper 社は、同プロジェクトに必要な投資額が、40 億 US\$から 44 億 US\$へと 10%増加したことを発表した。同社 CEO の Adkerson 氏によれば、投資額の増加はコストや人件費の上昇が原因である。Cerro Verde 銅・モリブデン鉱山は、拡張プロジェクトによって 1 日あたりの粗鉱処理量を 12 万 t から 36 万 t にするほか、2016 年には年間生産量が銅 6 億ポンド(約 27 万 t)、モリブデン 1,500 万ポンド(約 6,800t)増産する計画である。拡張に向けた建設工事の開始は、当初計画通り 2013 年であるとしている。(2012 年 10 月 29 日)

(4) Quellaveco 銅プロジェクト

- ・Quellaveco 銅プロジェクト(Moquegua 県)には 25~30 億 US\$の投資が必要とされ、マインライフは 28 年、鉱石埋蔵量は 974 百万 t(Cu:0.65%)と算定されている。(2012 年 2 月 20 日)
- ・Anglo American Peru 社の Marchese 代表取締役は、同プロジェクトは 2016 年に操業を開始する計画であり、鉱山建設には 44 か月間を要することから、2012 年内に鉱山建設を開始しなければならないとの見解を示した。(2012 年 2 月 20 日)
- ・Moquegua 県政府は、同プロジェクトの環境影響評価(EIA)に関して、国連プロジェクトサービス機関(UNOPS)による外部評価を依頼するとの計画を明らかにしている。(2012 年 6 月 11 日)
- ・Anglo American は、同プロジェクトの実施に関して、地元との 15 か月間の交渉の末、合意に至り、社会基金に 3 億 8 千万 US\$を拠出することを受け入れたほか、飲料水や農牧用の水資源は利用せず、6,000 万立方メートルの貯水池を建設することで、水資源量の増加に貢献することを約束した。さらに、鉱山建設で必要となる人員の 80%を県内で確保することも合意した。(2012 年 7 月 16 日)
- ・エネルギー鉱山省から鉱山建設に必要となる許可が 2012 年下半年期までに取得できた場合、4 年間の鉱山建設期間を経て、2016 年には操業を開始する見通しを示している。同プロジェクトへの投資総額は 30 億 US\$、銅生産量は年間 22 万 t となる見通しである。(2012 年 7 月 16 日)

(5) Tia Maria 銅プロジェクト

- ・Southern Copper 社の Gonzales 社長は、Tia Maria 銅プロジェクト(Arequipa 県)の前回の EIA に対して寄せられた不備の指摘を参考に、新たな EIA を実施していく考えを示したほか、その完成には約 3 か月間が必要となること、その後再び公聴会を実施する計画であることを明らかにした。(2012 年 2 月 6 日)
- ・新たな EIA の実施に伴い生産開始が 2015 年に延期されたと発表した。(2012 年 4 月 30 日)
- ・同社は、2013 年初頭における 2 度目の環境影響評価(EIA)承認を目指していることを明らかにした。同プロジェクトの当初の EIA は、不備があるとして 2011 年に政府により却下されたが、今回の EIA では、新たに海水淡水化プラント建設を盛り込んだ内容となっている。(2012 年 8 月 6 日)
- ・同プロジェクトでは 2015 年に操業を開始し、フル操業移行後は銅カソードを年間 120,000t 生産す

る計画である。(2012年8月6日)

(6) Los Chancas 銅プロジェクト

- ・ Southern Copper 社の Los Chancas 銅プロジェクト (Apurimac 県) の操業開始は 2015 年で、年間 80 千 t の銅を生産する見通しである。(2011年9月19日)
- ・ 2012 年に同プロジェクトの FS を実施する予定。(2012年4月30日)

(7) Chucapaca 金・銀プロジェクト

- ・ Gold Fields は、Chucapaca 金・銀プロジェクト (Moquegua 県) で 2015 年から年間 40~60 万 oz (約 12.4~18.7t) を生産する見通しを明らかにした。同プロジェクトは Gold Fields (51%) と Buenaventura 社 (49%) が共同で実施するプロジェクトで、3 万 t/日の処理能力を有するミルが設置される計画である。(2011年11月28日)
- ・ Gold Fields は、同プロジェクトの環境影響評価 (EIA) を 2012 年 8~9 月頃に提出する計画を明らかにした。また、2012 年末にはパートナーである Buenaventura 社とともに、プロジェクト開発に関して最終的な決定を行い、2013 年には鉱山建設を、2015 年には操業を開始するとの見通しを示した。(2012年3月5日)
- ・ 同プロジェクトでは、既に 10 万 m のボーリング調査を実施済みであり、金の資源量は 7.6 百万 oz (約 236t) と見込まれているが、今後プロジェクトの西部地域においてボーリング調査を行うことによって資源量を増加させたいとしている。同プロジェクトの推定投資額は 7.5 億 US\$ である。(2012年3月5日)

(8) Magistral 銅・モリブデンプロジェクト

- ・ Magistral 銅・モリブデンプロジェクト (Ancash 県) は、EIA 及び FS を実施中である。同プロジェクトには 5 億 US\$ が投資され、遅延しない場合、2016 年に操業を開始する計画である。(2012年8月27日)

(9) Antapaccay 銅プロジェクト

- ・ Xstrata Tintaya 社の Antapaccay 銅プロジェクト (Cusco 県) は鉱山建設が 32% まで進んでおり、2012 年下期に生産を開始する予定であることを明らかにした。同社は同プロジェクトに 14.73 億 US\$ を投資し、20 年のマインライフ期間に年間平均 140 千 t (最初の 10 年間は 160 千 t) の銅を生産する計画である。(2011年9月19日)
- ・ Xstrata Tintaya 社は、同プロジェクトは 2012 年 10 月に生産開始との見通しを示した。(2012年8月13日)
- ・ 同プロジェクトは Xstrata 社の操業する Tintaya 銅鉱山から 10 km に位置している。Tintaya 銅鉱山は今後数カ月で生産が終了するが、Antapaccay 銅プロジェクトの鉱量は 10 億 t を超え、20 年間のマインライフが見込まれている。同プロジェクトには 14.7 億 US\$ が投資される予定である。(2012年8月13日)

(10) Las Bambas 銅プロジェクト

- ・ Xstrata Las Bambas 社は、Las Bambas 銅プロジェクト (Aprimac 県) の進行状況に関して地元紙のインタビューに応じ、同プロジェクトの実施に必要な全ての許可の取得を完了し、現在は鉱山建設に向けた整地等の準備作業を実施している。本格的な建設工事は 2013 年 1 月から 2014 年末まで実施され、2015 年 1 月から生産を開始する計画である。(2012年9月17日)
- ・ 同プロジェクトへの投資総額は 52 億 US\$ で、少量の銀や金を含む銅・モリブデン精鉱を 1 日に 4,000~5,000t 生産し、年間で 40 万 t の銅を生産し、現時点での Las Bambas 銅鉱山のマインライフは 18

年の見通しである。(2012年9月17日)

- ・同プロジェクトでは現在鉱山建設が集中的に実施され、探鉱活動は一時停止状態となっているが、約2年後を目安に探鉱を再開される模様。(2012年9月17日)

(11) Minas Conga 金プロジェクト

- ・Newmont は、現在のところ、Minas Conga 金プロジェクト(Cajamarca 県)を進められる状況ではないとし、同プロジェクトを巡る中央政府と地元地域との関係が正常化し、プロジェクトに対する幅広い支持が得られるのを待ちたいとする方針を明らかにした。(2012年8月27日)
- ・同社は、プロジェクトの実施は水資源の供給が確保された後に行うとの考えを示したほか、プロジェクトから撤退する考えはないとし、現時点では水資源の確保を目的とした貯水池建設に集中する方針を示した。(2012年8月27日)
- ・Jimenez 首相は、同プロジェクトは実質的な一時中止の段階に入ったとの考えを示し、Cajamarca 県政府や自治体に対しては、長らく抗議行動によって衰退した同県の経済活動を復旧することが優先的な課題であるとの考えのもと、抗議行動の中止と協力を呼びかけた。(2012年8月27日)

(12) Coroccohuayco 銅プロジェクト

- ・9月27日付け地元紙によると、Xstrata Copper 社の Sartain 社長は、Tintaya 鉱山の南東9kmに位置する Coroccohuayco 銅プロジェクト(Cusco 県)が2016年に操業を開始する可能性を示唆した。同プロジェクトは現在プレFSの段階にあり、操業後は年間5万tの銅を生産する見通しである。(2011年10月3日)

(13) Corani 銀プロジェクト

- ・Bear Creek Mining 社(カナダ)は、2015年に Corani 銀プロジェクト(Puno 県)の操業を開始する計画である。(2011年10月31日)
- ・今後の投資額は6億US\$にのぼり、銀の生産量は年間15百万Oz(約470t)、マインライフは18~22年となる見通しである。なお、操業開始時期については、近々成立する予定の先住民事前協議法の施行細則の内容によっては延期される可能性もあると指摘した。(2011年10月31日)

(14) Dolores 銅プロジェクト

- ・Zincore Metals 社(カナダ)は、Dolores 銅プロジェクト(Apurimac 県)において、29mのトレンチ調査によって高品位(0.71%)の銅鉱徴を確認し、同プロジェクトは、近傍に位置する Las Bambas 銅プロジェクトや Constancia 銅プロジェクトと類似のポーフィリー銅鉱床であると伝えた。(2012年1月16日)
- ・Zincore Metals 社は、同プロジェクトの探鉱を First Quantum 社(カナダ)と実施することで合意し、既に同社との共同探鉱を開始したことを明らかにした。First Quantum 社は同プロジェクトから西に40km地点に位置する Haqira 銅・金プロジェクトの探査を実施中で、28億US\$を投資し2015年から鉱山建設開始の予定である。(2012年9月10日)

(15) Toromocho 銅プロジェクト

- ・エネルギー鉱山省は、Chinalco に対して Toromocho 銅プロジェクト(Junin 県)への投資の完了期限を1年間延長し、2014年1月までとする最高決議を発布した。同決議によると、同プロジェクトの投資額は20.52億US\$である。なお、生産開始は2013年10月の予定で、1日当たりの採掘量は235千t、マインライフは36年と見込まれている。(2012年2月13日)

(16) Canariaco 銅プロジェクト

- ・ San Juan de Canaris 農民コミュニティ (Lambayeque 県) では、裁判所の指示に基づく住民総会が実施された結果、Candente Copper 社の Canariaco 銅プロジェクトにおける今後 3 年間の探鉱活動を受け入れることが決定された。(2012 年 7 月 9 日)
- ・ 同プロジェクトに関して無関心或いは反対の立場を取る住民は、総会に参加しなかった。プロジェクト反対派は、8 月に別途住民投票を行う旨表明した。(2012 年 7 月 9 日)

(17) Ariquepay 銅プロジェクト

- ・ Cobriza Metals 社(カナダ)は、同社が探鉱を実施する Ariquepay 銅プロジェクト(Arequipa 県)で最近発見されたポーフィリー鉱床において、比較的規模の大きな金・銅・銀の鉱化作用を確認したことを明らかにした。モリブデンの存在も確認されている。(2012 年 7 月 23 日)

(18) Constancia 銅プロジェクト

- ・ Hudbay Minerals 社(カナダ)は、Constancia 銅プロジェクト(Cusco 県)の鉱山建設に約 15 億 US\$ を投資することを発表した。この額は、同社が昨年発表した投資予定額 10 億 US\$ を 50% 上回る(2012 年 8 月 13 日)。
- ・ 同プロジェクトは 2014 年末から生産を開始し、2015 年第 2 四半期からフル操業に入る計画となっている。また、2015~2019 年までは年間 118,000t、2020 年以降は年間 77,000t の銅を生産し、マインライフは 16 年の計画である。(2012 年 8 月 13 日)
- ・ Hudbay Minerals 社は、同プロジェクトの鉱山建設を開始したと発表した。同社は、地域社会との良好な関係を強調し、鉱山近傍の住民 2,500 人のうち 1,000 人を雇用したこと等を明らかにした。(2012 年 9 月 3 日)

(19) El Galeno 銅プロジェクト

- ・ Jiangxi Copper Corp(江西銅業)は、当初 2014~2015 年の間としていた El Galeno 銅プロジェクト(Cajamarca 県)の操業開始が 1 年程度遅延するとの見通しを明らかにした。同社は、遅延は政治的・法的理由によると説明したほか、現在実施中の環境影響評価(EIA)が政府によって承認された後に鉱山建設を開始するとコメントした。(2012 年 4 月 2 日)
- ・ 同プロジェクトの権益は、China Minmetals Corp(中国五鉱集团公司)が 60%、Jiangxi Copper Corp が 40% 所有している。(2012 年 4 月 2 日)

(20) 中国企業の鉄鉱石探鉱プロジェクト

- ・ Arequipa 県における中国企業による鉄鉱石探鉱プロジェクトの実施が活発化している。
- ・ Jinzhao Mining Peru 社は、Pampa de Pongo 鉄鉱石プロジェクト(Arequipa 県)の環境影響概要評価(EIAsd)をエネルギー鉱山省に提出した。同プロジェクトでは、15.1 百万 US\$ をかけて、18 か月間に 135 本のボーリング調査を実施する予定である。(2012 年 2 月 6 日)
- ・ Junefield Group 社は、Acari I 鉄鉱石プロジェクト(Arequipa 県)の環境影響申告書(DIA)を、また、Don Javier 鉄鉱石プロジェクト(Arequipa 県)の環境影響概要評価(EIAsd)を提出した。このうち、Acari I プロジェクトでは 50 万 US\$ を投資して 27 か月間で 10 本のボーリング調査を実施する計画である。(2012 年 2 月 6 日)
- ・ Golden Ideal Gold Mining 社は 2011 年末、Atico、Yuquibamba、Arequipa3 等の鉄鉱石プロジェクトに関する環境影響申告書(DIA)の承認を得ている。(2012 年 2 月 6 日)

(21) Macusani Yellowcake 社のウランプロジェクト

- ・ Macusani Yellowcake 社(カナダ)は、同社が Puno 県 Macusani 地方の複数のエリアで実施するウラン

探鉱において新たな鉱床が発見され、同社のウラン資源量は現在の 27 百万 lb(約 12,000t)から 40 百万 lb(約 18,000t)へと約 50%増加することを発表した。更に、2013 年までに資源量が 100 百万 lb(約 45 千 t)に増加する見通しを示した。(2012 年 3 月 12 日)

(22) 鉱業プロジェクトの延期

- ・ペルー鉱業石油エネルギー協会 (SNMPE) は、Minas Conga 金プロジェクトの一時中止は他のプロジェクトへは影響を及ぼさないとの見方を示したが、エネルギー鉱山省のデータは、2011 年末から 2012 年 7 月にかけて、鉱業プロジェクト 15 件(投資額合計 170 億 US\$)が延期されている現状を示している。なお、この 15 件には Minas Conga 金プロジェクト(投資額 48 億 US\$)は含まれていないが、同プロジェクトを含めると投資額の合計は 218 億 2 千 6 百万 US\$となる。(2012 年 9 月 3 日)
- ・エネルギー鉱山省が公表した 2011 年末の鉱業投資計画見通しと、最新(2012 年 7 月)の見通しを比較すると、2012 年に操業開始を予定していたプロジェクト 6 件が 2013~2015 年に延期されたほか、多くのプロジェクトが操業開始を 1~2 年延期するとしている。SNMPE は、操業開始の遅れは、政府による EIA 審査・承認の遅れや、先住民事前協議法施行細則の承認等が原因であるとしている。(2012 年 9 月 3 日)

表 3. 操業開始が延期された鉱業プロジェクト

プロジェクト名	企業名	位置(県)	当初操業 開始見込み	現在の操業 開始見込み	投資額 (百万 US\$)
Cuajone 鉱山拡張	Southern Copper	Moquegua	2012	2013	300
Toquepala 鉱山拡張	Southern Copper	Tacna	2012	2014	600
Bayovar 鉱山拡張	Miski Mayo	Piura	2012	2014	520
Quellaveco	Anglo American	Moquegua	2014	2016	3,300
Invicta	Invicta	Lima	2013	2014	93
Marcobre	Marcobre	Ica	2012	2013	744
Corani	Bear Creek	Puno	2014	2015	574
Hilarion	Milpo	Ancash	2013	2014	290
Quechua	Miner Quechua	Cusco	2013	2014	490
Pampa del Pongo	Jinzhao	Arequipa	2012	2015	3,280
Galeno	Lumina Copper	Cajamarca	2014	2016	2,500
Huaquira	Antares	Apurimac	2013	2015	2,800
Shahuindo	Sulliden	Cajamarca	2012	2014	185
La Granja	Rio Tinto	Cajamarca	2014	2016	1,000
Rondoni	Vichaycicha	Huanuco	2015	2016	350
合計					17,026



図 1. 主要鉱業プロジェクト位置図

6. 我が国との関係

(1) 日本への輸出

① 銅精鉱

2011年の銅精鉱の日本の総輸入量は438.7万tであった。その内、ペルーからの輸入量は63.4万t、14.5%であり、チリ(47.5%)に次いで第2位であった。

② 亜鉛精鉱

2011年の亜鉛精鉱の日本の総輸入量は88.4万tであった。その内、ペルーからの輸入量は22.6万t、25.6%であり、豪州(34.3%)に次いで第2位であった。

③ 鉛精鉱

2011年の鉛精鉱の日本の総輸入量は15.3万tであった。その内、ペルーからの輸入量は1.0万t、6.5%であり、豪州(47.7%)、米国(24.0%)、ボリビア(21.8%)に次いで第4位であった。

表 4. 日本への精鉱及び地金輸出入

鉱種	2009年	2010年	2011年	対前年増減比(%)
銅精鉱(千t)	774	777	634	-18.4
亜鉛精鉱(千t)	192	284	226	-20.4
鉛精鉱(千t)	8	18	10	-44.4

(出典：財務省貿易統計)

(2) 日本企業による投資状況等

Huanzala 亜鉛・鉛鉱山(Ancash 県)は、1968 年より 40 年以上にわたり Santa Luisa 鉱業(2012 年 8 月より三井金属鉱業 100%)が操業する中規模鉱山であり、また、Pallca 鉛・亜鉛鉱山は、Santa Luisa 鉱業が三井金属鉱業から租鉱権を得て、2006 年 3 月から本格的に操業を開始している。Pallca 鉱山で採掘された鉱石は Huanzala 鉱山に運搬され、同鉱山の選鉱場など既存設備により処理されている。Huanzala 鉱山の 2011 年の亜鉛、鉛、銅及び銀の生産量は、それぞれ 22,101t、9,330t、1,937t 及び 33,123kg、また、Pallca 鉱山は、それぞれ 13,343t、2,139t、663t 及び 9,713kg であった(生産量：エネルギー鉱山省)。

一方、パンパシフィック・カッパーにより FS が進められていた Quechua 銅プロジェクト(Cusco 県)については、2011 年 7 月に FS を終了した。一定の銅価格を前提とすれば経済性のある開発は可能との評価を得たとしつつ、所期の想定に対して埋蔵鉱量が減少し、建設費が増加していることから、今後の銅価格の動向等の投資環境を見極めつつ周辺鉱床のポテンシャル検証やコスト改善等、経済性を更に追及する必要があること、及び 2013 年の生産開始を目指しているチリ共和国カセロネス銅・モリブデン鉱床開発プロジェクトが 2012 年には建設のピークを迎えることから、まずはこれに全力を傾注する必要があること等の事情を踏まえ、開発への移行及びその時期については今後検討を重ね判断すると発表された。

三菱商事は、ペルー最大の Amtamina 銅・亜鉛鉱山に対して 10%の資本参加を行っているが、更に 2012 年 2 月、ペルー南部 Moquegua 県の Quellaveco 銅プロジェクトの権益 18.1%を国際金融公社(IFC)より取得した。パートナーはアングロアメリカンで残り 81.9%の権益を持つ。プロジェクト会社はリマに本社を置く Anglo American Quellaveco S.A. である。Quellaveco 銅プロジェクトは、約 1,000 万 t の銅資源量があるとされ、生産開始予定は 2016 年、年間生産量は銅 22.5 万 t でライフは 28 年間とされている。

他に、Cerro Verde 銅・モリブデン鉱山(Arequipa 県)に対し住友金属鉱山が 16.8%、住友商事が 4.2% 出資している。

(3) EPA 発効

日本とペルーの EPA(経済連携協定)について、2008 年 11 月の首脳会談で交渉開始に向けて前向きに検討することで一致し、これを受けて、2009 年 3 月下旬に両国政府間で準備会合が行われた。その結果、双方の基本的な立場等について共通認識は醸成されたことから、2009 年 5 月に EPA 交渉第 1 回会合がリマで開催された。その後、両国間で交渉を重ねた結果、2010 年 11 月に日本、ペルー両国の首脳が終了宣言を発表し、また、2011 年 5 月 31 日に松本外務大臣とフェレイロス通商観光大臣(当時)が協定に署名、双方で批准され、2012 年 1 月 23 日、在ペルーの福川大使とペルー外務省ロハス経済局長の間で EPA 発効に関する文書が取り交わされ、2012 年 3 月 1 日より発効した。

7. その他トピックス

・ Minas Conga 金プロジェクトの中止

Minas Conga 金プロジェクトは、ペルー北部 Cajamarca 県の Yanacocha 金鉱山の北東 24km に位置する斑岩型銅・金鉱床開発プロジェクトで、可採鉱量は金が約 190t、銅が約 77 万 t(Newmont 社資料)とされている。プロジェクトは Newmont 51.35%、Buenaventura 社 43.65%、International Financial Corporation 5%の JV 企業である Minera Yanacocha 社によって実施されている。

同プロジェクトは、水源地帯であるプロジェクト地域において、4 つの湖の水を抜き、人口湖に移転させるとしており、最大の Perol 湖及び Mala 湖は水を抜いた跡地がそのままオープンピットとされ、更に Azul 湖はズリ堆積場に、Chica 湖は廃さい堆積場にするという計画であった。2カ所のオープンピット(Perol Pit 及び Chailhuagon Pit)で採掘し、粗鉱は破碎・摩砕し浮遊選鉱で含金銅精鉱とす

る計画で、2014 年後半から 2015 年に生産を開始する予定であった。マインライフは 19 年で、生産開始から 5 年間は年間に金約 10t、銅約 45,000t を生産するとしていた。48 億 US\$ の投資が計画されており、2010 年 10 月に環境影響評価 (EIA) がエネルギー鉱山省によって承認され、Minera Yanacocha 社が建設に着手したところで、同プロジェクトへの反対運動に火が付いた。

プロジェクト反対派は、Perol 湖において露天掘り採掘 (直径 2 km、深さ 1 km の計画) が行われれば、地下水脈にも影響を及ぼすほか、採掘によって土壌や水が酸性化し、酸性水による環境破壊が起ると警告した。また、湖の枯渇によって周辺地域の湿地帯が失われるが、湿地帯は湖と同様に貯水機能を有していることから、乾季の農耕牧畜における重要な水資源が打撃を受けると訴え、2011 年 11 月 24 日から同プロジェクト反対の無期限デモが始まった。

無期限デモ開始に先立つ 2011 年 11 月 16 日、Humala 大統領は、ペルー経済が根本的に鉱業で成り立っていること、同プロジェクトは大規模プロジェクトであり生産開始以降は大きな税収が期待出来ること、水資源保護と資源開発の両方を取るのが理性的な立場であるとの考えを示し、同プロジェクトへの支持を表明したものの、同プロジェクトの作業は中断し、反対運動はエスカレートしていく。

政府も同プロジェクトの EIA 再評価が必要と判断し、国際的な専門家チームを立ち上げ、EIA の水資源に関する部分の再評価を 2012 年 2 月から開始、2012 年 4 月 17 日には再評価報告書が政府に提出された。報告書では、これらの湖はいずれも重要な水の供給源ではなく、また、2,000ha の湿地帯の内、プロジェクトによって影響を受けるのは 90ha 程度であることが示されている一方で、Azul 湖及び Chica 湖の埋め立てを避けるため、別の場所にズリや廃さい堆積場を建設すること、貯水池の拡張、酸性水処理におけるパッシブトリートメントの適用、表土の保存方法の改善等が提案されていた。Newmont は、EIA 再評価報告書の提案内容を踏まえた技術的・経済的評価を行い同プロジェクトが採算性がないと判断された場合、プロジェクトを中止し、同社が他国で実施中のプロジェクトに資金を再配分する可能性に言及した。

2012 年 5 月以降も同プロジェクトに対する反対運動は続き、抗議デモ隊と警官隊との衝突も激しさを増す。この反対運動の激化により Cajamarca 県の経済も混乱、市民生活は支障をきたし、子供や教職員のデモ参加により学校教育にも問題が出た。2012 年 6 月には Newmont も EIA 再評価報告書の内容を踏まえた同プロジェクトの開発計画修正を受け入れることをペルー政府及び Cajamarca 県民に対し書面で伝えたが、2012 年 7 月 3 日の同プロジェクト反対のデモ隊と警察との衝突で、デモ隊から 3 名が死亡、翌 7 月 4 日には更に 1 名が死亡、そして 7 月 6 日には重傷だったデモ参加者 1 名が死亡するという事態に至り、ペルー政府は現地に非常事態宣言を発令した。ペルー政府及び Cajamarca 県は事態收拾を図るため、それぞれ聖職者を代理人に立て対話を図ったが、2012 年 8 月 3 日にペルー政府が 30 日間の非常事態宣言の延長を行うと、Cajamarca 県側は聖職者との対話を行わない方針を明らかにした。

同プロジェクトを巡るペルー政府と Cajamarca 県との関係が泥沼化の様相を見せていた 2012 年 8 月 23 日、Newmont は、「同プロジェクトを進められる状態ではなく、同プロジェクトを巡る中央政府と地元地域の関係が正常化し、プロジェクトに対する幅広い支持が得られるのを待つ」との方針を明らかにしたが、これは同プロジェクトの事実上の中止と受け止められている。

Minas Conga 金プロジェクトへの反対運動に関しては、世界でも屈指の資源ポテンシャルを有するペルー鉱業の動向を左右するものとして世界中の鉱業関係者が注目していた。反対運動には、水資源を始めとする環境問題、鉱山企業に対する信頼の欠如、貧困問題や鉱山地域住民の生活レベルの向上が達成されていないこと、県政府の政治的利害などが複雑に絡み合っているとされている。この反対運動の結果、大統領も支持する方向を表明した鉱業プロジェクトが事実上の中止に追い込まれた。

Minas Conga 金プロジェクト反対運動は、2011 年 4 月から 6 月にかけての Puno 県の Santa Ana 銀プロジェクトへの反対運動 (Bear Creek Mining 社への鉱区付与取り消しや今後 36 ヶ月に亘る Puno 県の鉱区申請受理の中止を定めた最高政令公布等により収束) を含め、今やペルー全土に広がった感のある反鉱業運動を象徴する出来事であり、Cajamarca 県は特に反鉱山意識が強いと言われているが、その

理由の一つに Yanacocha 金鉱山の問題がある。

Yanacocha 金鉱山は、Minas Conga 金プロジェクトの西南西約 20km に位置する。Minas Conga 金プロジェクトと同じ操業者による南米第一の金鉱山で、ヒープリーチングで金が回収される。2011 年は 1,293,119oz (約 40.2t) の金を生産した。

2000 年 1 月 Yanacocha 金鉱山下流の Porcon 川で、サケ科の魚類 10,000 尾以上が死んでいるのが見られたほか、Bambamarca の Llaucano 川でも 11,000 尾のサケ科の魚類が死ぬという出来事があったとの情報がある。当時、周辺河川の水質は、カドミウム、鉛、水銀が許容値を超えていたとも言われている。さらに 2000 年 6 月 2 日、Yanacocha 鉱山からトラックに積まれた、鉱山の副産物とされる水銀 151kg が Choropampa 村付近の道路に延長 43km に亘って漏出するという事故があった。当時のペルー政府の見積もりによると 900 人以上の人々が漏出した水銀の被害を受けたと言われている。

2012 年 9 月 3 日付け地元紙によると、この水銀漏出事故以来、老人や子供を含む多数の住民や周辺環境に大きな被害が出ており、Yanacocha 鉱山は再三の被害対策の要請に応えないと Yanacocha 鉱山水銀漏出事故被害者の会が言う。これら過去の出来事から地域住民は鉱山に対する不信を強め、Minas Conga 金プロジェクトが開発に入った段階で地域住民の猛反発が起こったとみられる。最近の Minas Conga 金プロジェクトへの反対運動に関し、このような背景を関連付けて報道しているものは少ないが、留意しておく必要がある。

(2012.10.30 リマ事務所 岨中真洋)